

# 平成30年度 第1回 佐倉市立美術館運営協議会

## 議事録

日 時：平成30年7月21日（土） 15：00～17：00

場 所：佐倉市立美術館 4階会議室

出席者：以下のとおり

(委 員 7名)

齊藤委員、豊田委員、長澤委員、樋田委員、  
広本委員、安本委員、吉村委員

(美術館職員 6名)

宍戸館長、本橋副主幹（学芸員）、永山主査（学芸員）  
木邨主査（学芸員）、黒川学芸員、西川主事（学芸員）

### 会議次第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報告事項
  - (1) 平成30年度人事異動について（公開）
  - (2) 平成29年度事業報告について（公開）
  - (3) 平成30年度事業計画等について（公開）
4. その他
5. 閉 会
  - ・鑑賞（女子美術大学と佐藤志津展）
  - ・鑑賞（夏のミテ・ハナソウ・ルーム2018）

## 【2. あいさつ】

<館長よりあいさつ>

## 【3. 報告事項】

(1) 平成30年度人事異動について

<館長より説明>

(2) 平成29年度事業報告について(資料4～5頁)

<事務局より説明>

(会長)

平成29年度事業について、報告していただきましたが、何かご意見はございますか？

(委員)

「佐倉・城下町400年記念事業総合展示」を鑑賞しながら考えたことですが、市内には佐倉市の歴史資料をいつでも見ることの出来る施設が無いということです。このことについては現在、建設が予定されている佐倉図書館も関係してくるのですが、美術館としてはどのようにお考えでしょうか？

(美術館)

昨年度まで佐倉図書館の庁内検討会のメンバーに入っていました。その段階の情報としてですが、市史編纂室の施設が老朽化しているため、これを新図書館の一機能として加えたいとか、日比谷図書文化館のような歴史展示室を設けたいという希望が関係課から出されていました。佐倉市には国立歴史民俗博物館もありますが、佐倉市の歴史資料がいつでも展示されているわけではないので、こうした機能を加えた複合施設案が出されていたものと思います。

(会長)

この美術館に話を戻すと、地域に密着する美術館であっても、博物館とは性質の違いというものがあります。今後も色々な要望が寄せられると思われませんが、活動していく上でどこに軸を置くのか、館内でよく議論しておく必要があるのかもしれない。

(委員)

この美術館の方針の一つとして開館以来、一貫して「近代」というものを見据えて活動してきたように思います。これまで四半世紀に渡り、積み重ねてきた近代美術に関する調査研究について、継続な事が望ましいように思わ

れます。郷土資料館としては、別に施設を設けられた方が良いのではないのでしょうか？

(会長)

かなり前になってしまいますが、1994年に東京都美術館がほとんどの所蔵作品を東京都現代美術館へ移管したことがありましたね。

(委員)

企画展や団体展、公募展等を中心に運営する東京都美術館には常設展示室が無かったこともあり、常設展示室のある東京都現代美術館への移管が行われました。図録等の資料についても、美術図書館と新しいネットワーク・システムが設置され、アーカイブの集中管理をしている東京都現代美術館へ移管する判断だったように記憶しています。佐倉市立美術館も可能であれば、小さくても良いので、常設展示室があると良いですね。

(会長)

近年、海外から借りた作品が破損した場合に国が補償する「美術品補償制度」があるのですが、作品を所蔵していないと、対象にならないそうです。そのため、何年か前に東京都美術館では作品40数点を戻したそうです。

(委員)

「佐倉・城下町400年記念事業総合展示」について、アンケートの結果についてお聞きしたいと思います。「市内の人が佐倉の歴史を見たい」とか、「市外の歴史好きの人が佐倉市の歴史について知りたい」等の意見が、どのような比率だったのか、教えていただけると幸いです。

(美術館)

文化課の主催事業であったため、アンケート集計結果を確認しておりませんが、展覧会に関しては、おおむね好評だったと聞いています。

(委員)

「ミテ・ハナソウ・プロジェクト」に関する二種類の印刷物（『活動報告と評価2013-2017』、『事業評価報告書2013-2017』）についてですが、事業評価については、どのような経緯で行っているのですか？

(美術館)

他ではあまり見られない方法かもしれませんが、今回の事業評価については複数の委員による委員会形式ではなく、他のアートフェスティバルなどのリサーチをおこなっている外部の専門家をお願いしています。といいますのも、現代のアート・プロジェクトをどう評価するかというのは、どこでも課題となっていて、よく事業評価書で見受けられる「参加者数」や「実施回数」等、表面

的な数字の羅列だけでは測れないものを、どう測るかの先進事例を目指したいというこちらの強い意向でおこないました。またこれを伝えていきたいということで「読んでもらえる報告書」を目指しました。

(委員)

実行委員会ではなく、1人の評価者が一つの方向から評価した、ということで良いのでしょうか？

(美術館)

事業に寄り添ったリサーチと分析という形での評価をしていただきました。評価者が価値判断をするのではなく、関係者それぞれの目指していたもの、やったこと、その結果と、さらにそこから生まれてきたものを取材・分析する、事業に寄り添った形の評価が行われました。予期しないものを生み出す性質を持つアート・プロジェクトに有効な方法の一つだと思われます。委員のおっしゃっている評価はこれが出たうえで、外部がどうこの価値を判断するか、という部分で、そこは評価委員会などを組織しておこなう必要があると思いますが、そこまでは至っていません。

(会長)

これはなかなか難しい問題だと思います。予算を工面しているのは行政ですが、アート・プロジェクト事業の主役は誰なのか、という問題ですね。誰に対しての事業評価なのかも含め、よく話し合っていたらと思います。

(委員)

2種類作成するのであれば、薄い方だけを文化庁に提出しても、良かったのではありませんか？

(美術館)

いえ、それが文化庁の補助金で作成したものは、全て提出することが義務付けられているのです。

(委員)

これらの資料にとっても興味があるのですが、市民の方はどこに行けば見ることが出来ますか？

(美術館)

市内の各図書館、市役所2階の市政資料室には配布しており、全国の美術館にもお送りします。「ミテ・ハナソウ」のHPでもご覧いただくことが可能です。

(3) 平成30年度事業について(資料6～7頁)  
＜事務局(各担当)より説明＞

(会長)

平成30年度事業について、説明していただきました。何か他にご意見はございますか？

(委員)

美術館に歴史系博物館の機能を追加するのではなく、新町通りには有形登録文化財などもありますので、それらを活用してエコミュージアムとして街並み博物館とされては如何でしょうか？ まち全体をミュージアムとし、空き家を利用して佐倉の歴史を紹介し、美術館はそのサテライトとなるのが良いのではないのでしょうか？

(会長)

他にありませんか？特に無いようでしたら、本日は事務局から提案があるようです。

(美術館)

現在、2・3階展示室で開催中の「女子美術大学と佐藤志津展」をご覧いただいた後、1階エントランスホールで本日から始まった「夏のミテ・ハナソウ・ルーム2018」にご参加いただければと考えております。日々、練習を重ねてきたボランティアの方々の成果をご覧いただき、またご意見をいただきたいと考えております。

(会長)

では、皆さん、よろしいでしょうか？

(委員)

はい。

(美術館)

それでは、本日の議事はここまでとなります。本日はありがとうございました。

**【閉 会】**